

2013年2月 気仙沼仕事創出プロジェクトレポート

2013年2月15日「気仙沼仕事創出プロジェクト、一般法人化」

ローターアクトによる「気仙沼仕事創出プロジェクト」は、気仙沼の水産加工品の東京圏における販路開拓とこれができる気仙沼の人材育成を継続して進めるために、気仙沼に主たる事務所を置く一般社団法人として設立登記手続を行いました。

2013年2月15日「気仙沼を食す会第2回を開催」(ときわ台「かね福」にて)

「気仙沼仕事創出プロジェクト」にて「気仙沼を食す会 第2回」を開催しました。東京板橋セントラルロータリークラブのサポートにて、会場はときわ台の居酒屋「かね福」でした。お子様二人も加えますと40人のご参加をいただきました。

気仙沼市唐桑町から有限会社カトー（スイサンカトー）の加藤由紀枝工場長にお越しいただき、気仙沼の現状と水産加工品にかける想いを語っていただきました。もちろん、お料理もカトーさんの水産加工品をアレンジしたものです。お酒は気仙沼の地酒、男山と両國の双方をいただきました。

気仙沼仕事創出プロジェクトにおける水産加工品の定期購買支援担当の杉山さんから「定期購買プラン」（3ヵ月ごとにスイサンカトーの水産加工品が届くサービスにて、2万円です）の説明がありました。まずは、3口のお申込みをいただくことができました。



2013年2月23日「中目黒村マルシェの気仙沼水産加工品販売ブースへボランティア」

「気仙沼仕事創出プロジェクト」にて、中目黒駅前にて毎月開催されている「中目黒村マルシェ」における気仙沼水産加工品販売ブースのボランティアを行いました。3名が参加しました。これで2回目になります。今後も継続して行きます。



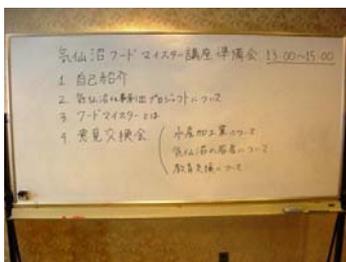
2013年2月24日「気仙沼にて「気仙沼フードマイスター講座」の準備会を開催」

気仙沼のパールシティホテル会議室にて、気仙沼仕事創出プロジェクトによる「気仙沼フードマイスター講座」準備会を開催しました。

「気仙沼フードマイスター講座」は気仙沼の中学生、高校生を対象にして、気仙沼の地元の食材を再発見し、マーケティングやコミュニケーションを学び、その上で、新しい食品の開発を実際に行うプログラムです。これに、気仙沼と東京のつながりにより、東京圏のニーズの調査やフィードバックを活かすものとします。

当日は、気仙沼と東京の20代メンバー、気仙沼の水産加工会社の工場長、東京から気仙沼に移り住んで高校生の学習支援を行うNPO法人の理事、また、気仙沼のコンビニ・オーナーなどの経営者など13名にご出席いただきました。

気仙沼の若者事情や、水産加工会社の現状・イメージ、そして、この講座にて気仙沼の次世代に伝えていきたいこと、学んでほしいことを意見交換しました。また、中学生、高校生に具体的なカタチを見せることの大切さも話し合われました。



2013年2月25日「気仙沼の水産加工会社「マルトヨ食品」へヒアリング」

気仙沼市中みなと町（鹿折地区）の水産加工会社「マルトヨ食品」にヒアリングに行ってきました。「気仙沼仕事創出プロジェクト」では、東京圏への販路開拓を行っている、または行うことを検討している気仙沼の水産加工会社への調査を進めています。

「マルトヨ食品」は津波で壊滅的な被害を受けた鹿折地区にて生産、営業を続けられています。会社（工場）の2階まで津波が来ました。1階が工場にて生産機械が設置されおり、2階が事務室です。

取締役営業部長の清水浩司さんにお話を伺うことができました。清水さんは毎月下旬の土日、東京／目黒で開催されている「中目黒村マルシェ」に出店をされています。

マルトヨ食品ではサンマを主な素材として生産、販売されています。看板食品は「さんまソフト味醂干し」です。震災前の販路はスーパーがメインでしたが、今後、こだわりのある個人客もターゲットに含めていきたいとのことでした。

